

秋吉台科学博物館ミニ特別展

秋芳洞調査最前線

Photo by
GOTO Satoshi

2017 2018

12 / 12 – 5 / 13

TUE

SUN



2017年6月、新空間「殊勝殿」が発見され、秋芳洞の長さはついに10,000mを超えて日本第二位となりました。調査の成果と科学的意義を日本を代表する洞窟写真家後藤聰の美しい写真で紹介します。



会場：秋吉台科学博物館二階展示スペース

開館時間：9:00 – 17:00 入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館） お問合せ：0837-62-0640

秋芳洞調査最前線

この度、秋吉台科学博物館、山口大学洞穴研究会、日本洞窟学会企画運営委員会などで作る合同調査団の測量によって秋芳洞の総延長は10,700mを超え、日本第二位となりました。秋芳洞は秋吉台で最も大規模な洞窟というだけではなく、日本最大の容積を持つ洞窟です。洞窟としては唯一の特別天然記念物であり、日本を代表する洞窟と言っても過言はないでしょう。早くから学問的興味を集め、1903年（明治36年）に最初の科学論文が発表されています。同じ頃、観光洞開発を始めた梅原文次郎は、その学術的価値を証明するため、山口高等商業学校のエドワード・ガントレットと、広島高等師範学校教授の中目覚に調査を依頼しました。1909年（明治42年）には、ガントレットが英國紀行誌に論文を寄稿し、海外に初めて秋芳洞が紹介されました。以来、今まで100年以上に渡って、探検、調査、研究が続けられています。

秋芳洞は観光洞として国内外に広く知られていますが、公開されているのは秋芳洞全体のごく一部に過ぎません。未公開部を地下川沿いに遡っていくと琴ヶ淵という地底湖で水没し、その先に進むためには洞窟潜水が必要になります。これに最初に挑んだのは秋吉台科学博物館で、1962年（昭和37年）のことでした。その後、もぐらケイビングクラブ、西日本洞窟潜水研究会などによる潜水調査が行われ、1998年までに総延長は7,500mになりました。更に、1999年には記録的な大渇水があり、普段水没していた洞窟が干上がって葛ヶ穴と第七新洞が連結していることが山口大学洞穴研究会により発見され、秋芳洞の長さは8,850mに伸長しました。

正面入口から琴ヶ淵までの範囲については、1960年代に正確な測量図が作製されていました。しかし、新たに複数の支洞が発見され、更に未調査空間があることも分かっていたため、正確な規模は不明でした。そこで、秋吉台科学博物館ほかによる合同調査団が結成され、2014年より再測量が実施されました。2017年12月現在で秋芳洞の総距離は10,700mを超え、また、新空間「殊勝殿」^{しゆしょうでん}が発見されるなど、大きな成果が上がっています。未だ、秋芳洞の全容は明らかになっておらず、更なる発見を目指した調査が継続されています。このミニ特別展では、調査の成果とその科学的意義を日本を代表する

洞窟写真家、後藤聰の写真により紹介します。



原角・翻訳：アーヴィング

黑色：未公關部（陸上）

水色：未公開部（陸上）

水色：朱云開部（水中）
カッコ内は初めて探検／調査が行われた年

距離 (m) はその空間を公表した当時の長さ

